

環境科学技術研究所の目的

環境科学技術研究所は、核燃料サイクル施設の六ヶ所村への立地にあたり、青森県からの要請を受けて、平成2年（1990年）に設立されました。

当研究所は、放射性物質及び放射線による環境や生物への影響に関する調査研究を推進し、その研究成果・関連情報の提供を通して、原子力と環境とのかかわりについて理解の増進を図っております。

当研究所は、本分野における世界のトップレベルの研究所として、青森県の皆様と共に歩んでいくことを目指しております。

公益財団法人
環境科学技術研究所
理事長
島田義也



環境科学技術研究所の特色

六ヶ所村にある原子力施設に 焦点を絞った取り組み

原子力発電所の使用済核燃料再処理施設から排出される放射性物質が、環境中でどのように動き農水産物に取り込まれるのかを明らかにして、人がどの程度の線量の放射線を浴びるのか（被ばく）を推定するための調査研究を行っています。

立地地域（六ヶ所村）の住民や 県民の疑問・不安へ対応

- 生物が少量の放射線（低線量）に長時間にわたって被ばくした場合の影響を調べるため、マウスを用いた実験調査を行っています。
- これらの研究成果を、関連情報と合わせて広く発信しています。

世界的にもユニークな 研究施設を活用した、 調査研究への取り組み

多様な天候を模擬できる施設を活用した放射性物質の移行研究、長期間にわたり低線量率放射線照射ができるSPF施設を活用したマウス照射実験等により、世界にも類を見ないデータを取り続けています。

